

ESAO Congress 参加印象記

国立循環器病研究センター研究所人工臓器部

島村 淳一

Junichi SHIMAMURA



2019年9月3日～7日に開催された第46回ヨーロッパ人工臓器学会 (International Conference of the European Society of Artificial Organs, ESAO) に参加する機会を得た。本年はドイツ、ハノーバーのハノーバー大学Conti Campus内にて開催された。

本学会はヨーロッパの人工臓器分野における主要学会であり、補助人工心臓 (left ventricular assist device, LVAD) を中心とした心臓外科領域の演題が多いが、tissue engineeringや透析分野など発表内容も多岐にわたる。なかでもartificial pancreas (AP) はヨーロッパにおけるトピックのようで、ランチョンセミナーのテーマとなっていた。心臓血管外科周術期管理にも関わる内容であり、興味深く拝聴した。会場は大学構内ということもあり、ホテル会場のような華やかさはないものの、アカデミックな学会の印象が際立っていた。

筆者は連続流型LVAD補助下における両心室容量解析¹⁾²⁾に関する口頭発表を行った。国際学会での発表、特に質疑応答は何度経験しても緊張するが、幸いにして本分野の第一人者である座長のSchima教授より貴重なコメントを頂いた。また、本研究は当施設で筆者が初めて取り組んだ研究であり、テーマ立案から動物実験や解析に至る試行錯誤を思い出し感慨深かった……ところまでは良かったものの、帰国の便が見事に台風15号とニアミスし、ハノーバー空港から大阪にたどり着くのに丸一日以上を要するオチもついた。

本学会の魅力は何と言っても人工心臓領域全般における、多職種の発表から最新の知見を得られるところにある。

■ 著者連絡先

国立循環器病研究センター研究所人工臓器部
(〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町6-1)
E-mail: junichi.shimamura39@ncvc.go.jp

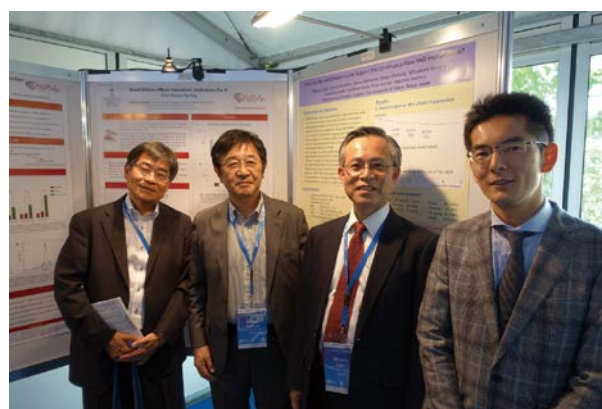


図1 左より茨城大学工学部増澤 徹教授，国立循環器病研究センター研究所人工臓器部 巽 英介前部長，東京大学心臓外科小野 稔教授，筆者

来年はイギリス、ロンドンにて開催予定であり、機会があればまた参加したい。

最後に、これまで幾多の指導を頂いた国立循環器病研究センター研究所人工臓器部の先生方、そして大学院指導教官の東京大学心臓外科小野 稔教授に改めて感謝申し上げたい(図1)。

本稿の著者に規定されたCOIはない。

文 献

- 1) Shimamura J, Nishimura T, Mizuno T, et al. Interventricular dyssynchrony during continuous-flow left ventricular assist device support: observation using the conductance method. J Artif Organs doi:10.1007/s10047-019-01115-5, 2019 [Epub ahead of print]
- 2) Shimamura J, Nishimura T, Mizuno T, et al. Quantification of interventricular dyssynchrony during continuous-flow left ventricular assist device support. J Artif Organs doi: 10.1007/s10047-019-01109-3, 2019 [Epub ahead of print]